



## ○ 労山基金運営委員会

## 事故原因の大半を占める

## 転倒・滑落事故

今月に限ったことではないが申請案件の事故原因としては転倒・滑落が圧倒的に多い。ちなみに5月の交付申請件数15件のうち12件が転倒・滑落による事故である。もちろん一口に転倒・滑落といっても状況はいろいろあり、困難な場所（雪と氷に覆われた沢の詰めとか）での事故もあれば、普通の登山道のような安全と思われる場所での事故もある。特に高齢者が多いとされる後者については増加傾向にある。

リーダー部長や山行管理者など事故防止対策の企画実行を推進する立場の方におかれては、転倒・滑落事故防止対策を重点課題として種々の取り組み・検討をされていると思う。

私たち基金管理運営委員は事故防止対策を論ずる立場にはないが、交付申請案件を通じて多くの直接的な事故情報に接している。そこで感じ気付いたことを発信していくことも意味があるのではな

いかと思っている。

例えば直近では一般登山ルートの下山の難所を切り抜けて安全な場所に出た直後に事故を起こした案件から「緊張感の継続維持」がいかにかに難しいものであるかを感じている。関係の方々に参加になるかどうかはわからないが、今後もしこのような発信を続けていきたい。

（鶴田秀雄／労山基金運営委員）

## ○ 組織部

## 全登研究会に参加しよう！

組織部会は6月部会より全国登山研究会実行委員会と部会を兼ねて実施している。だから、議題も全登研究会に関するものが主になっている。10月に開催される全国登山研究会の開催要綱概要について、簡単に記す。

【テーマ】新しい生活様式に対応した登山文化と登山運動を継承し発展させよう。【場所】東京ホテルコンチネンタル【期日】10月23日（土）～24日（日）【参加費】8000円【時間】23日12:30 受付開始 13:00浦添嘉徳会長挨拶 13:10基調報告川嶋高志

理事長 13:30 記念講演伊藤圭氏

15:30 分科会開始 1 山小屋の

諸問題、2 登山道と遭難対策、3

岩場のマナーとアクセス、4 魅惑

のトレイルその楽しみ方 翌24日

8:30 分科会開始 10:00 終了

その後オプショナル。【申し込み

締切り】10月12日（水）

会場の都合で参加者1000名に

達し次第締切る。レポートを募集

している。締切り・9月30日（金）

迄。詳細は開催要綱をご覧ください。

多くの登山会員、登山者の奮って

の参加をお待ちしています。

（久保典子／組織部長）

## ○ 山筋ゴーゴー体操推進委員会

山筋ゴーゴー体操講習会in福井

7月2日（土）に山筋ゴーゴー

体操講習会が開かれた。

コロナ禍で長らく山に行きにく

い状況が続いた影響で、会員の筋

力低下を考慮し怪我や遭難の予防

にと福井県連が開催した。

早い梅雨明けの猛暑の中、エア

コンがあるとはいえ、換気をしな

がらマスクをつけてのトレニー

ングは大変だったことと思う。

最初はぎこちなかった動きも最後は見違えるようにきれいなフォームになり、参加者の皆さんのニコニコ顔で終了となった。これからもこの山筋体操を持続して下さることを期待している。

講習会後は福井県連の方々懇談の時間を持ち、山の話や県連活動の紹介をしていただいた。

福井県連では県連でできる活動を本当に一生懸命に取り組んでおられ、だからこそ出てくる、今後のさらなる発展への道筋を真剣に模索されていた。

全国連盟からは連盟の数々の講習会、集会活動を紹介すると、「こうもできるのですね、ああもできるんですね、是非利用していきたいね」と話がどんどん弾み、全国連盟の活動も知っていただき、懇談は終わった。

福井県連初めての講集会！は、大成功で無事に終了した。

(宇田川道恵／山筋ゴーゴー体操推進委員)

### ○遭難対策部

事故が増加しヘリ搬出も5件

6月2日から7月6日までに届

いた事故一報は39件41名。

転倒が17名(無雪期15名、積雪期1名、山スキー1名)。転落が3名(無雪期3名)。滑落5名(積雪期1名、無雪期1名、登攀1名、沢登り2名)。体勢4名(無雪期3名、人工壁1名)。落雪が1名(積雪期1名)。虫が8名(無雪期6名、訓練2名)。その他3名。登山形態では、無雪期30名、積雪期3名、山スキー1名、登攀2名、沢登り2名、人工壁1名、訓練2名。骨折13名、損傷6名、裂傷6名、打撲3名、その他13名。男性20名、女性21名。

所属連盟は、京都・兵庫各5名。大阪4名。道央・東京・岡山が各3名。群馬・埼玉・神奈川・愛知が2名。道東・宮城・茨城・千葉・石川・長野・岐阜・滋賀・和歌山・長崎が各1名。年齢は、30代4名、40代6名、50代8名、60代14名、70代8名、80代1名。

事故一報からは、下山中の転倒事故が41件中17件発生。転倒事故の報告は、増加の傾向が続いている。登攀・沢登り・積雪期の落雪・虫による事故を除くとほぼ下

山中に発生。60歳以上の割合が高く(70歳も1名含む)注意しても足腰の衰えにより、滑る・躓く・バランスを崩す事が多くなっている。今回も下山完了寸前の登山口で木橋より転落する事故発生。最後まで、気を抜かない対応が必要です。今回は、滑落・転落・落雪でヘリ搬出が5件発生した。一つ間違うと重大事故に繋がる。自身の力量・体力・体調を総合的に見極めて慎重に行動してほしい。

今年も暑い日が続き熱中症が心配される。夏の山登りは、炎天下の高温で激しい運動の連続する環境での行動が多く、上手にリスクを捉えながら、山に出かけよう。熱中症は、予測・予防・早期発見・早期対応が大切だと言われている。意識がはっきりしているが、手足のしびれや、めまい・立ち眩み、筋肉のこむら返りがあるときは軽症の熱中症と考え現場で早めに対応し経過観察を行おう。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。